

形にとらわれずに「自由」に表現！

檜山 由美 さん

書家「由芽」



文字やデザインを自由な発想で表現する「インテリア装書」 夫の雅一さんが生産するお米のパッケージもデザイン

実りの秋を迎え、お米も収穫のシーズンを迎えます。今回は当別で米農家を営み、書家「由芽」としても活動されている檜山由美さんにお話をお聞きました。

習い事として始めた書道

書道を習い始めたのは、小学3年生の時。親に習い事を進められ、近所の書道教室に通い始めました。昔から書家を目指してはありませんが、とにかく文字を書くことが好きでした。就職してからも、当時はまだ職場にパソコンが普及していなかったので、文字を手で書く機会が多くあり、のし袋もよく書いていました。その後、実家が農家だった夫と出会い、結婚を機に当別にやってきました。

インテリア装書教室で開眼

転機となったのは、札幌でインテリア装書を習いに行った時です。インテリア装書とは、従来の書道にとらわれ

ず、自由な発想で表現する書道作品のことです。今もお世話になっている倉本真知子先生から、文字だけではなく、色やデザインで表現することの楽しさを学びました。カラーコーディネーターの資格を持っていたこともあり、自分が目指すべき書家のイメージを確立することができました。

書道は自分を表現するツール

集中して文字を書いている時が一番楽しいです。何日も思ったように書けずに悩むこともあれば、すぐに書けてしまうこともあり、本当に奥が深いです。また、書道は私にとって自分を表現するツールの一つだと思っています。文字の太さや長さ、力強さなど、表現の仕方は無限にあります。毎回同じように書けることは決してなく、答えがないところに魅力を感じます。答えがないからこそ、自由に表現することができ、何度も挑戦してみようと思えるのかもしれない。

当別で繋がり魅力を伝えたい

今は新型コロナウイルスの影響もあり、人が集まることが難しいですが、落ち着いたらワークショップを開いて、インテリア装書の楽しさを広めたいです。また、当別にはアート活動をしている人が多いと聞きますが、なかなかつながらず機会がありません。当別でアート活動をしている人たちの輪を広げ、何か新しいことができないか模索しています。みんなで協力して、いろんな形で当別の素晴らしさを伝えていきたいです。(8月18日取材)

